

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.tachibana.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

各地で『個人投資家向け会社説明会』を開催



昨年8月～今年3月にかけて東京、名古屋、福岡、広島、仙台で「個人投資家向け会社説明会」を開催。多数の方にご来場いただきました。今後も定期的に開催していく予定で、知名度の向上と企業認知の拡大、さらに投資家・ファンの獲得に繋げられるように取り組んでまいります。

株主様向けアンケート 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com/>
アクセスコード 8159

いいかぶ

検索

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 ※本アンケートは、株式会社 a2media(エーツーメディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp/>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」

TEL:03-6779-9487 (平日 10:00~17:30)
MAIL:info@e-kabunushi.com

 株式会社 立花エレテック

〒550-8555 大阪市西区西本町一丁目13番25号
電話: 06-6539-2718 FAX: 06-6539-8820

<http://www.tachibana.co.jp/>

Electric & Electronics Technology

立花エレテックは電機・電子の「技術商社」です。

変革・挑戦・飛躍
Change, Challenge, Jump up

株主通信

第90期 年次報告書

2018年4月1日 ~ 2019年3月31日

 株式会社 立花エレテック

C.C.J2200 100th Anniversary in 2021

証券コード: 8159



「M2Mシステム技術」を高め、 製造業の生産性向上を支援する ことで、さらなる成長を目指します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

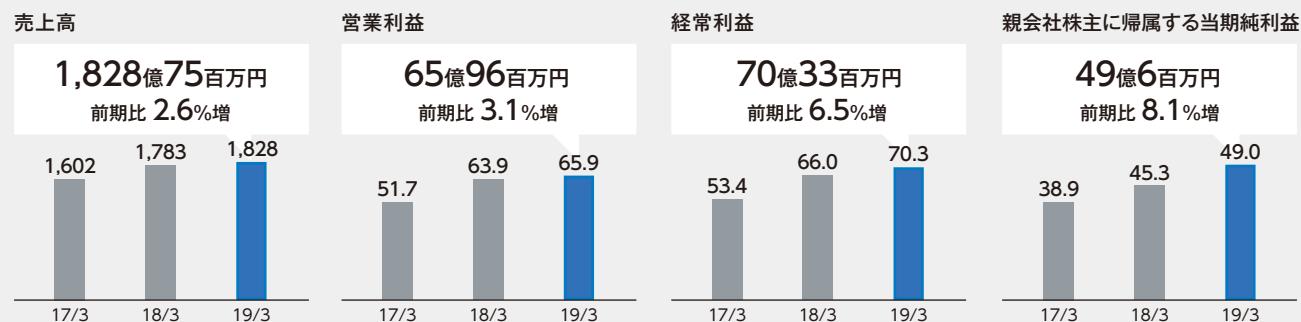
代表取締役社長 渡邊 武雄

Q 当期の業績の概要についてお聞かせください。

A 海外子会社の落ち込みを単体がカバーし、売上及び営業利益・経常利益がともに過去最高を更新。

当期の業績は、売上高1,828億75百万円(前期比2.6%増)、利益面では営業利益65億96百万円(前期比3.1%増)、経常利益70億33百万円(前期比6.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益49億6百万円(前期比8.1%増)となりました。なお、売上高(15年ぶりに更新)、営業利益、経常利益につきましては過去最高となりました。

業績の推移 [単位: 億円]



この要因につきましては、製造業の設備投資、特に半導体製造装置関連及び自動車関連などに牽引され、売上高は単体が堅調に推移し、第3四半期以降、米中貿易摩擦の影響を受けた海外子会社の落ち込みをカバーできたこと、加えて中長期経営計画「C.C.J2200」の施策推進の成果が現れてきたと考えています。特にFAシステム事業では、「地域のサービスレベルの均一化」への取り組みの徹底と製造現場の生産性向上を実現するロボットを含むM2M(機械間通信)ビジネスを強力に推進したこと、また施設事業では、首都圏・中部圏を中心に人材先行投資を行い、販路開拓や取引拡大を推進したことなどが成果に結びついたと分析しています。さらに

「C.A.P1500プロジェクト」推進による体質改善が功を奏して営業力が強化されたことも増収増益の要因であったと考えています。

なお、FAシステム事業と施設事業の売上高は過去最高を更新しました。

Q 連続して3つの大規模展示会に出展されましたが、狙いと成果についてお聞かせください。

A 認知度、M2M技術の向上及びグループ結束強化に取り組み、予想以上の成果が得られました。

昨年10月に「関西工場設備・備品展」、「CEATEC JAPAN」、11月に「組込み総合技術展(ET展)」と大規模展示会に立花エレテックグループとして出展しました。

出展の狙いは、①認知度の向上。創立100周年に向け「電機・電子の技術商社」としての評価を高めることです。②M2M技術の向上。AI・IoT時代到来を踏まえ、ロボットを含むM2M領域の技術を高めることです。③グループ結束強化。グループで出展することにより、各社の保有技術を結集するとともに結束力を強化することです。

そして出展を終えての成果は、①予想以上に認知度UPに繋がったこと。②技術力UPに繋がったことです。①については、NHKなどのメディアに取り上げられ、メイン展示の「近未来のミニチュア工場」のロボットがテレビで放映されました。またEdgecrossコンソーシアムやCEATEC運営会社から、M2M技術によるFAとITのシステム間連携の分かり易い展示や連携した複数ロボットの制御技術、AIを使った画像技術などにより高評価を受けました。②については、展示物の制作を通して、新たな技術(エッジコンピューティングやオープンネットワーク等のIoT/M2M技術、画像認識等のAI技術、触覚センサーハンドや無軌道搬送車などの制御技術)の習得・検証が出来、グループとして技術力UPに繋がりました。

これら3つの大規模展示会には、節目の創立100周年にあたる2021年まで継続出展し、技術に磨きをかけるとともに実用化に向けさらなる経験と実績の蓄積を行い、「M2Mといえば立花」といわれる存在になれるように取り組んでまいります。

Q 株主の皆様への還元についてお聞かせください。

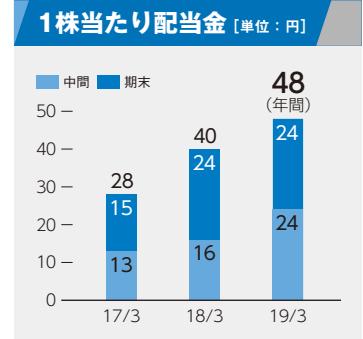
A 年間では前期比8円増配の48円及び株主優待を実施しました。

株主の皆様に対する利益還元につきましては、経営の重要課題と認識しており安定配当をベースとして業績に裏付けされた適正な利益還元で報いてまいりたいと考えています。

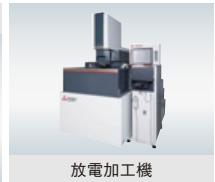
当期の配当金につきましては、中間配当金を当初予定より1株当たり2円増配して24円、期末配当金も2円増配して24円とし、年間配当金は48円(前年比8円増配)とさせていただきます。

また株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方に中長期的に保有していただけるよう、株主優待を導入し、保有株式数と継続保有期間に応じた額面のクオ・カードを6月下旬に発送いたしました。

株主の皆様におかれましては、長期的な視点で当社グループの成長を見守っていただきたく、引き続き一層のご支援、ご協力をお願いいたします。



FAシステム事業



FAシステム事業は、「C.C.J2200」の基本戦略に掲げた「地域のサービスレベルの均一化」への取り組みの徹底と、製造現場の生産性向上を実現するM2M(機械間通信)ビジネスを強力に推進しました。そのような中、半導体製造装置関連及び自動車関連の設備投資需要を背景に堅調に推移しました。売上高は過去最高を更新しました。

- ▶ FA機器分野は、プログラマブルコントローラー、配電制御機器及びACサーボが堅調に推移しました。
- ▶ 鉄鋼プラント向け等の大型設備投資案件の獲得も売上に貢献しました。
- ▶ 産業機械分野は、レーザー加工機及び製造ライン向け自動化設備が伸長しました。
- ▶ 産業デバイスコンポーネント分野は、タッチパネルモニターが伸長しました。

施設事業



施設事業は、製造業における工場の設備更新や環境改善・省エネを目的とした設備増設の動きが増加する中、「C.C.J2200」の展開として人材先行投資による販路開拓や取引拡大などの成果が現れ、好調に推移しました。売上高は過去最高を更新しました。

- ▶ 設備用パッケージエアコン、ビル用マルチエアコンなどの空調機器は伸長しました。
- ▶ 発電設備、受配電設備が大型物流施設向けなどに伸長しました。
- ▶ エコキュート、電気温水器などのオール電化製品は好調に推移しました。
- ▶ 全社をあげて取り組んできたLED照明は好調に推移しました。

その他



- ▶ MMS分野は、立体駐車場向け金属部材及び搬送用荷役機器が好調に推移しました。
- ▶ EMS分野は、自動車関連向け電子機器製造受託の案件及びプラットフォーム稼働率の案件が好調に推移しました。

半導体デバイス事業

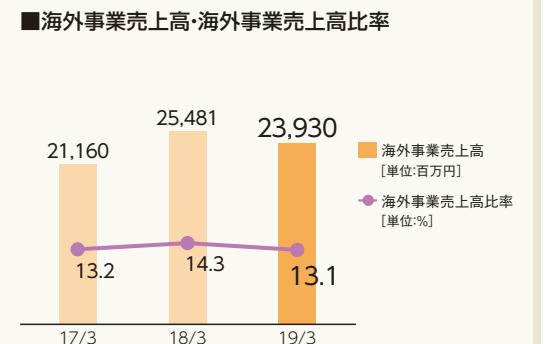


- ▶ 国内では猛暑により需要の高まった空調関連、前期から続く旺盛な設備投資需要に支えられた産業関連に加え、車載関連向けにパワーモジュール、メモリー及びアナログICが好調に推移しました。
- ▶ 海外では後半に入り米中貿易摩擦の影響を受けて減収となりました。

海外事業売上高



海外事業売上高は、シンガポールやタイにおいて、半導体が伸長しましたが、中国においては第3四半期以降、米中貿易摩擦の影響による景気の減速から減少しました。
なお、海外事業売上高比率は13.1%であります。



1 3つの大規模展示会に立花エレテックグループとして出展

創立100周年に向け「M2Mシステム技術に強い」電機・電子の技術商社としての評価を高めるとともにさらなるM2M技術の向上とグループの結束強化のため大規模展示会に出展しました。

CEATEC JAPAN 2018

10月16～19日

幕張メッセ

出展テーマ 「近未来工場」をコーディネート

ブース来客数 4,302名

アジア最大級のエレクトロニクスとITの展示会「CEATEC JAPAN 2018」に初出展しました。

メインステージは、ロボットをM2M(機械間通信)技術でつないだ「近未来工場」。ゴルフボールを無人搬送し、AI技術と三菱電機、川崎重工業、スイスABB社の3メーカーのロボットによって検査、判別、箱詰めする一連の作業を無人で行ったり、AR(拡張現実)技術を用いて、トラブル発生時に遠隔から復旧させるデモを実施しました。またFAとITのシステム間連携やハンドセンサーによるロボットの制御技術などを展示しました。



第3回 関西工場設備・備品展

10月3～5日

インテックス大阪

出展テーマ 「工場のお悩み」を解決

ブース来客数 1,665名

「IoT/M2M」「省エネルギー」「コストダウン(海外製造受託)」「参加型展示」の4つのゾーンで当社グループのトータルコーディネート力をPRしました。



組み込み総合技術展 ET2018

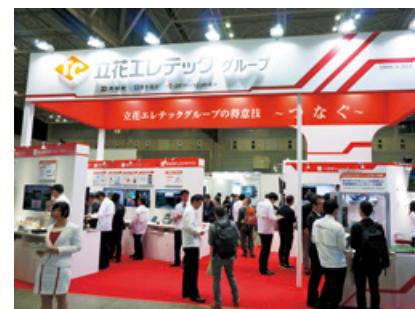
11月14～16日

パシフィコ横浜

出展テーマ 「つなぐ」技術でM2Mをサポート

ブース来客数 2,004名

ハンドジェスチャーによるロボット操作の体験型デモをはじめ当社の組み込み技術やIoTに不可欠なエッジコンピューティング技術をアピールしました。



2 東京支社にショールームを開設

昨年12月3日、東京支社(東京都港区)1階にショールームをオープンしました。「CEATEC JAPAN 2018」で展示し大きな反響を集めた、ロボット・AI(人工知能)・AR(拡張現実)などの技術を組み合わせた「近未来ミニチュア工場」のデモ設備やIoT(モノのインターネット)/M2Mソリューション、また関連製品などを展示しています。当社の技術力を体感していただけるとともに、ロボットやM2Mの導入に際しての動作テストやシステム検証ができる場として活用していきます。



3 本社ショールームが産官学連携の3Dプリンター普及ネットワークの拠点に

3Dプリンターは、幅広い産業分野で生産・加工の効率化に役立つことが期待されています。しかし、海外市場に比べ国内市場は未だ小さい状況です。国内の3Dプリンターの普及拡大を図るべく、近畿経済産業局と当社が事務局を務める「3Dものづくり普及促進会」が連携。そのため5月29日に本社1Fに専用ショールームを開設しました。樹脂系、金属系の3Dプリンターや3Dスキャナーを展示し、実機を見せながらお客様へ提案できるほか、試作開発の場としても使用できるため、導入前検討にも役立ちます。



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2019年3月31日現在)	前期 (2018年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	96,470	93,782
現金及び預金	15,167	15,705
受取手形及び売掛金	65,682	63,893
商品	13,368	11,712
その他	2,253	2,472
固定資産	24,699	27,405
有形固定資産	5,219	5,338
無形固定資産	258	285
投資その他の資産	19,221	21,782
資産合計	121,170	121,187
負債の部		
流動負債	50,873	52,035
支払手形及び買掛金	42,548	43,625
短期借入金	1,949	1,644
その他	6,376	6,766
固定負債	2,380	2,657
長期借入金	83	45
繰延税金負債	1,777	2,295
退職給付に係る負債	227	71
その他	292	245
負債合計	53,253	54,692
純資産の部		
株主資本	62,397	57,944
その他の包括利益累計額	5,519	7,317
非支配株主持分	—	1,233
純資産合計	67,916	66,495
負債純資産合計	121,170	121,187

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	前期 (自2017年4月1日 至2018年3月31日)
売上高	182,875	178,324
売上総利益	24,542	23,594
販売費及び一般管理費	17,946	17,199
営業利益	6,596	6,395
経常利益	7,033	6,605
税金等調整前当期純利益	7,317	6,647
親会社株主に帰属する当期純利益	4,906	4,539

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

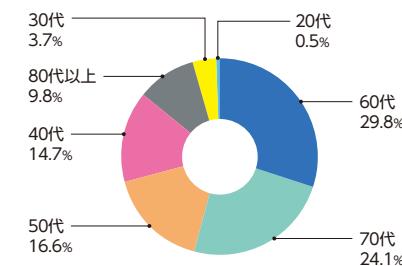
(単位:百万円)

科目	当期 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	前期 (自2017年4月1日 至2018年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	510	4,199
投資活動による キャッシュ・フロー	1,334	90
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,420	△861
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△60	△49
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	363	3,379
現金及び現金同等物の 期首残高	13,274	9,894
現金及び現金同等物の 期末残高	13,638	13,274

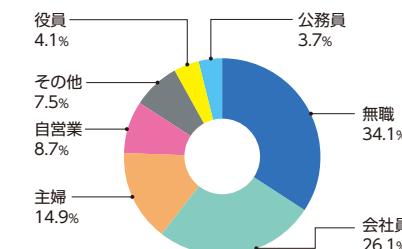
株主アンケート結果のご報告

第90期中間報告書「株主通信」にて、株主の皆様へのアンケートを実施させていただきました。その結果、758名の株主様からご回答が寄せられました(回答率13.2%/前年より260名増加)。お忙しい中ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。ここに、お寄せいただいたご回答の集計結果を報告させていただきます。当社では、皆様からの貴重なご意見を今後の活動に反映させるべく努め、今後とも企業価値の向上に取り組んでまいります。

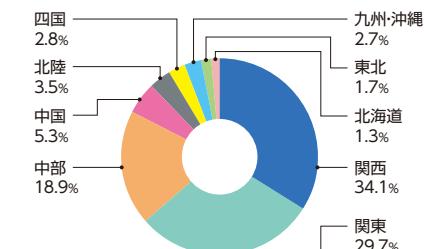
年代



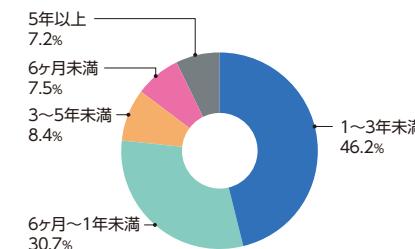
職業



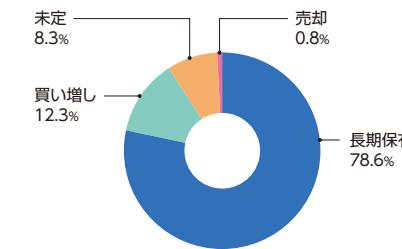
地域



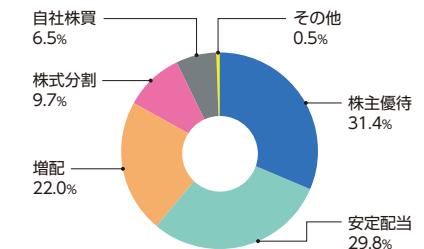
当社株式の保有年数



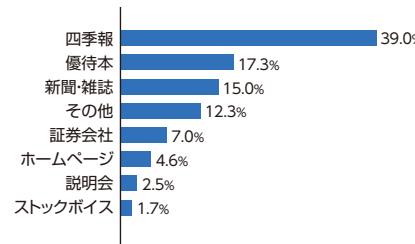
当社株式の保有方針



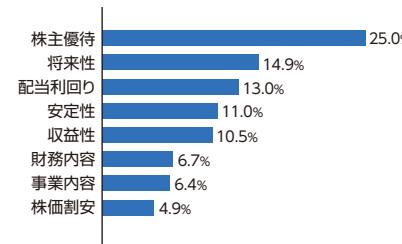
当社株主還元策として期待すること(複数回答可)



当社株式を購入されるきっかけとなった情報源(複数回答可)



当社株式の購入理由(複数回答可)



当社株式を1~3年未満保有の株主様が急増(14.8%→46.2%)。2017年5月の株主優待導入発表後、新たに株主になられた方が増えたと推測されます。また購入理由、株主還元策として期待することについては、株主優待が1位となりました。

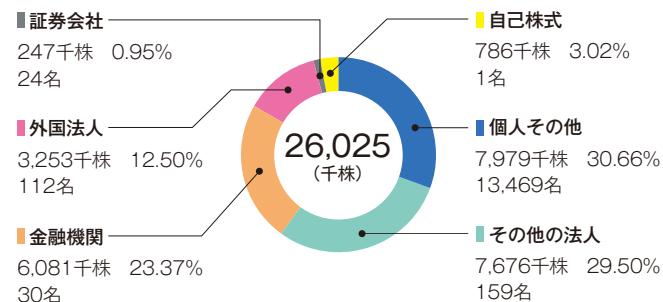
株式情報 & 会社情報

株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	96,000 千株	
発行済株式総数	26,025 千株	
株主数	13,795 名	
大株主		
	株主名	持株数 持株比率
	三菱電機株式会社	1,921 (千株) 7.61 (%)
	KBL EPB S.A. 107704	1,523 6.04
	株式会社サンセイテクノス	1,478 5.86
	立花エレテック従業員持株会	1,133 4.49
	株式会社三菱UFJ銀行	1,082 4.29
	株式会社きんでん	754 2.99
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	746 2.96
	株式会社ノーリツ	742 2.94
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	591 2.35
	佐竹 千草	491 1.95

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
 2. 上記のほか、当社が保有する自己株式が786千株あります。
 3. 持株比率は自己株式786千株を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況 (2019年3月31日現在)



(注) 千株未満は切り捨てて表示しております。

会社概要 (2019年3月31日現在)

商号	株式会社 立花エレテック	
英文社名	TACHIBANA ELETECH CO.,LTD.	
創業	1921年(大正10年)9月1日	
設立	1948年(昭和23年)7月12日	
資本金	58億74百万円	
従業員数	822名(連結1,304名)	
株式上場	東証一部	
ISO取得	品質マネジメントシステム ISO9001 JQA-QMA10303	
	環境マネジメントシステム ISO14001 EMS693431	
	情報セキュリティマネジメントシステム ISO27001 IS 509430	

取締役・監査役・執行役員 (2019年6月25日現在)

代表取締役社長 社長執行役員	渡邊 武雄	常務執行役員	高見 尚志
取締役 専務執行役員	山口 均	執行役員	米田 浩
取締役 専務執行役員	高見 貞行	執行役員	植田 裕和
取締役 常務執行役員	布山 尚伸	執行役員	多田 満
取締役	生田 誠	執行役員	相澤 忠範
取締役	辻川 正人	執行役員	松浦 良典
常勤監査役	松橋 澄	執行役員	城下 雅紀
監査役	大谷 康弘	執行役員	永安 悟
監査役	塩路 広海	執行役員	佐野 博行

事業所 (2019年3月31日現在)

本社	大阪市西区西本町一丁目13番25号	営業所	東北(宮城県)
支社	東京(東京都)、名古屋(愛知県)		
支店	東関東(茨城県)、北関東(埼玉県)、神奈川(神奈川県)、三河(愛知県)、東海(愛知県)、北陸(石川県)、三重(三重県)、滋賀(滋賀県)、南大阪(大阪府)、神戸(兵庫県)、姫路(兵庫県)、広島(広島県)、四国(香川県)、九州(福岡県)		

関係会社 (2019年3月31日現在)

国内	海外
研電工業株式会社 株式会社立花宏和システムサービス 株式会社大電社 株式会社立花デバイスコンポーネント 株式会社高木商会	立花オーバーシーズホールディングス社 タチバナセールス(シンガポール)社 マレーシア営業所 タチバナセールス(香港)社 台湾立花股份有限公司 立花機電貿易(上海)有限公司 支店: 北京、深圳 営業所: 武漢、大連、青島 タチバナセールス(韓国)社 タチバナセールス(バンコク)社 タチバナセールス(インドネシア)社
本社(大阪市西淀川区) 本社(兵庫県尼崎市) 本社(大阪市浪速区) 本社(東京都港区) 本社(東京都大田区)	中華人民共和国(香港) シンガポール 中華人民共和国(香港) 台湾(台北市) 中華人民共和国(上海市) 大韓民国(ソウル市) タイ王国(バンコク) インドネシア(ジャカルタ)

